

政策評価書（要旨） （事後の事業評価）

事業名	観測ヘリコプター（OH-1）のフォローアップ	担当部局	経理装備局技術計画官
政策体系	4-1 研究・開発	実施時期	平成21年1月～3月

事業の内容 観測ヘリコプター（OH-1）のライフサイクルコスト低減に資するため現用ブレードと同等の飛行性能、振動特性等を有する耐エロージョン向上ブレード及び耐久性・燃料消費率の向上を図った運用コスト低減化エンジンについて技術資料を得るための研究試作を実施する。	13	14	15	16	17	18	19	完了年度
	← 研 究 試 作 →							平成19年度
					試 験			経費総額
								22億円

評価の内容

事業の目的 厳しい財政状況の中、各装備品においてもライフサイクルコスト低減が求められている。このため、観測ヘリコプター（OH-1）のライフサイクルコスト低減に資する耐エロージョン向上ブレード及び運用コスト低減化エンジンについて研究を行い、技術を取得する。

達成状況 ①達成効果 本事業においては、試作した耐エロージョン向上ブレード及び運用コスト低減化エンジンについてそれぞれ目標性能を達成したことにより、以下のような達成効果が得られた。 ア 観測ヘリコプター（OH-1）用ブレードとして、エロージョン耐久性を向上させたブレードを試作することができた。 イ 観測ヘリコプター（OH-1）用エンジンとして、現有エンジンの性能を維持しながら、耐久性を向上し整備間隔を延長できるとともに燃料消費を低減し、エンジンの運用コストを低減可能なエンジンを試作することができた。 ウ 本事業で得られた技術は、今後のエンジン開発における性能改善や開発当初からフォローアップを考慮した装備品の開発に利用することができる。

②達成時期 平成13年度から研究試作に着手し、平成19年度までに所内試験を終了し、所要の機能・性能を有することを確認した。なお、当初計画では平成16年度に終了予定であったが、コンテインメント試験における飛散物の防止技術に係る技術課題の解明のため3年間延長した。

③教訓等事項 ア 本事業により、観測ヘリコプター（OH-1）のライフサイクルコストを低減することが可能となり、得られた技術は今後のヘリコプター開発等に適用することができる。 イ 本事業において、コンテインメント試験における飛散物の防止技術等の困難な課題を解明したことにより、ガスタービンエンジンの技術基盤の育成に大きく寄与したものと考える。
--

今後の対応 耐エロージョン性向上ブレードについては、平成19年度以降に納入された観測ヘリコプター（OH-1）に適用済。また、平成20年度以降に補用分として調達を予定。運用コスト低減化エンジンについては、平成21年度以降の新造エンジン契約及び平成22年度以降にオーバーホール契約時に改修したエンジンを、逐次観測ヘリコプター（OH-1）に搭載を予定している。

その他の参考情報 「観測ヘリコプター（OH-1）のフォローアップ」に関する外部評価委員会（20.3.1） 委員（職名は開催時点）：梶 昭次郎（帝京大）、石澤 和彦（元ESPR）、近藤 恭平（東大）、二村 尚夫（JAXA） 「今回の研究試作及び所内試験の結果から、目標とした観測ヘリコプター（OH-1）の現有エンジンの耐久性の向上及び燃料消費率の低減が達成できたものと認められる」
